



UNIPRES



ユニプレス株式会社

証券コード: 5949

2018年10月



UNIPRES CORPORATION



1. 会社概要

2. ユニプレスの強みと成長戦略

3. 中期経営戦略

4. 株主還元



初めまして！ユニプレスです。

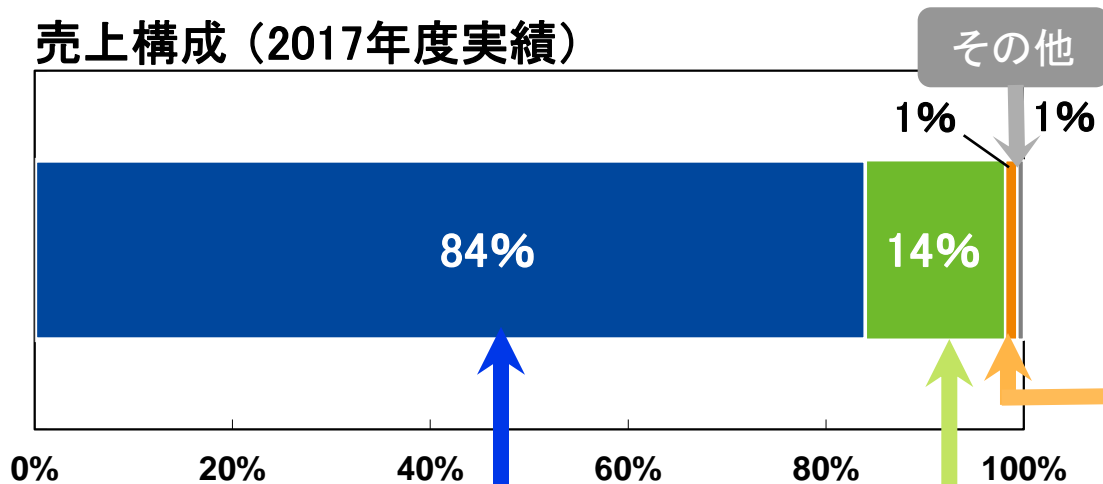
1. 会社概要



当社の製品とは

UNIPRES

売上構成 (2017年度実績)



樹脂プレス製品



車体プレス製品



トランスミッション用製品

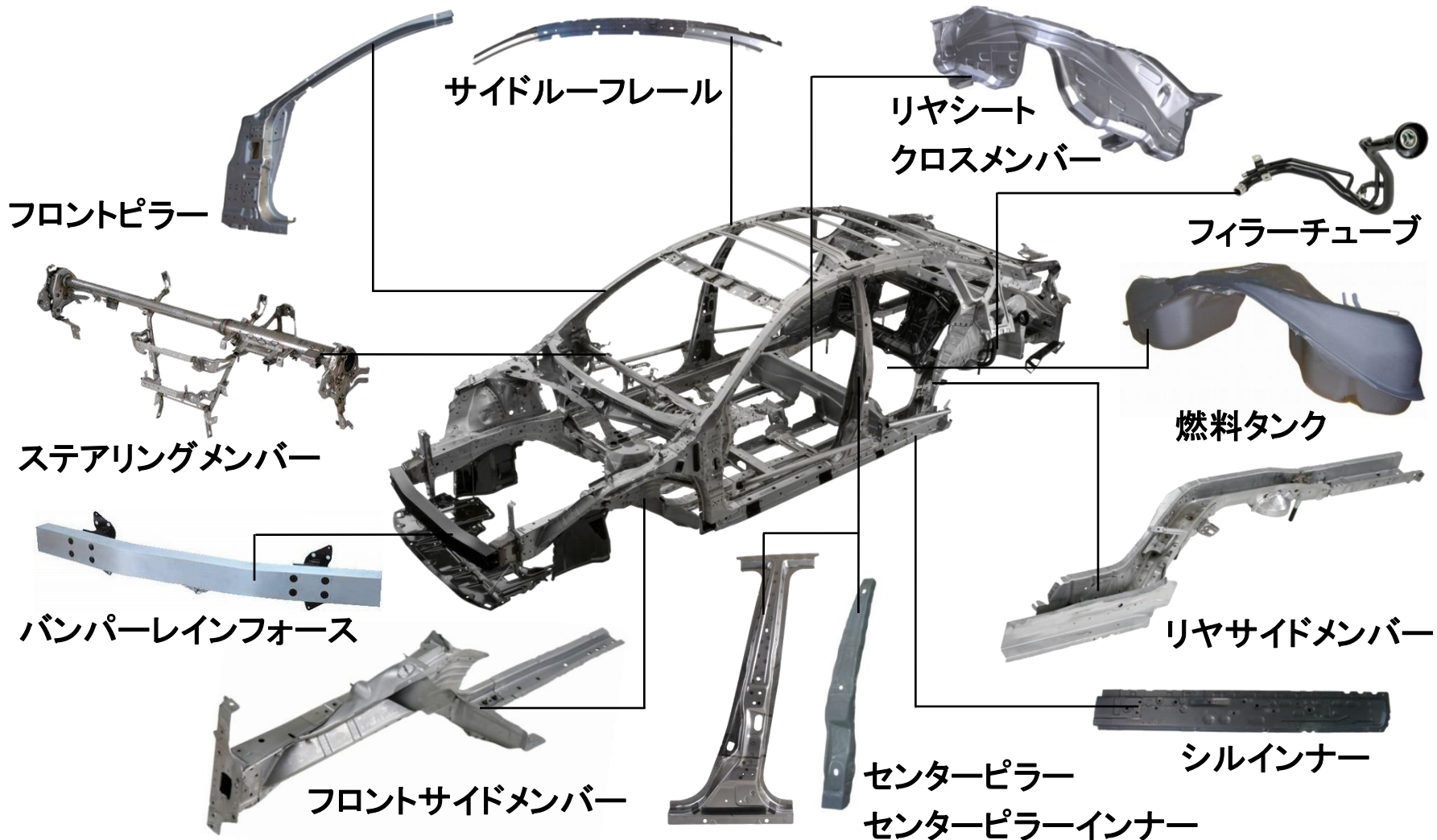


- ・車体プレス製品、トランスミッション用製品、樹脂プレス製品を生産
- ・売上構成比は、車体プレス製品が84%を占める



UNIPRES

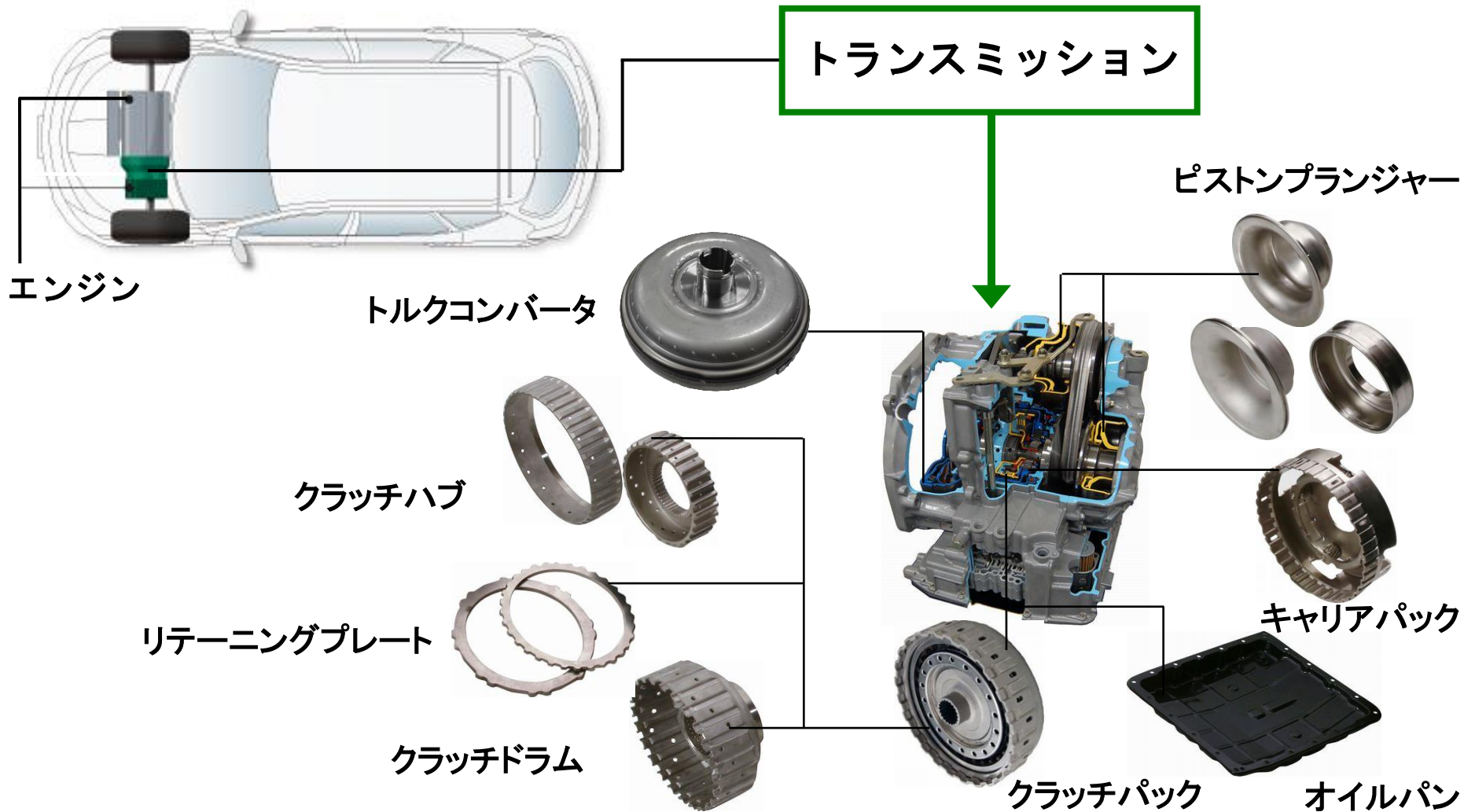
車体プレス製品



衝突安全性や燃費向上のための軽量化を支える重要な骨格部品等を生産



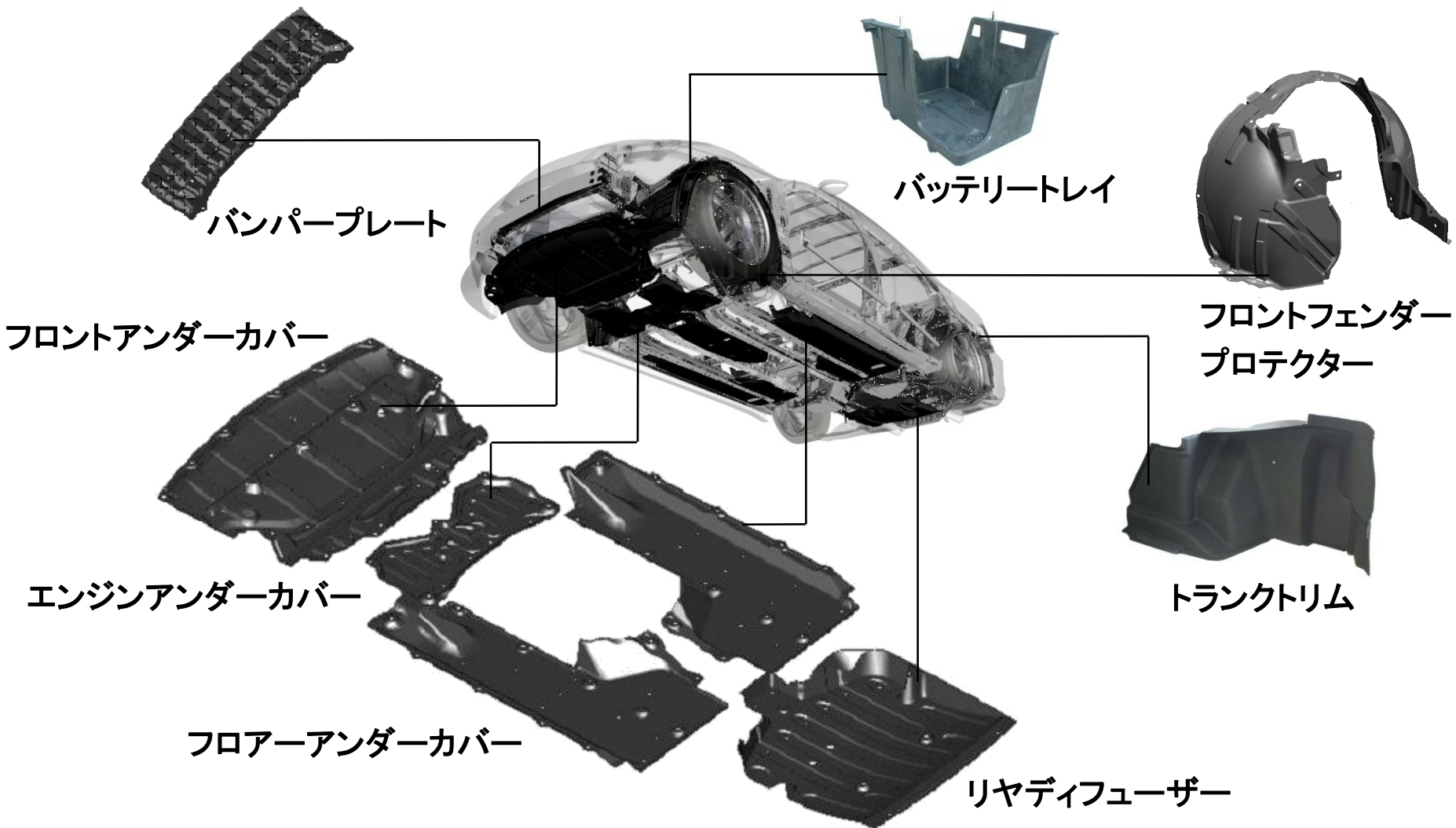
トランスミッション用プレス製品



精密さと強度を求められるトランスミッション用部品を生産



樹脂プレス製品



独自のプレス工法で軽量、低コストな樹脂部品を生産



身近な当社製品

NISSAN

ノート



セレナ



リーフ



エクストレイル



スカイライン



GT-R

HONDA

フィット



フリード

SUBARU



インプレッサ

MAZDA

アテンザ



N-BOX



SUZUKI

ラパン



アクセラ

DAIHATSU

ミラココア



! Point

国内大手メーカーと取引



グローバル拠点一覧

ユニプレスヨーロッパ
ユニプレスイギリス

ユーエムコーポレーション

ユニプレスタイ

ユニプレスインド

ユニプレスインドネシア

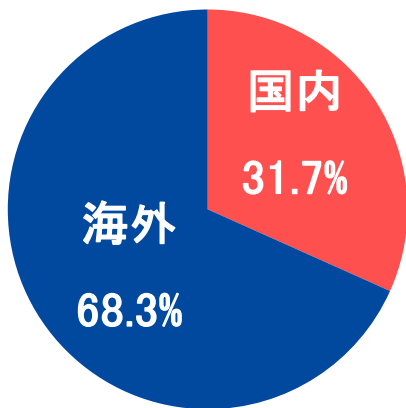
ユニプレス(中国)
ユニプレス広州
ユニプレス鄭州
ユニプレス精密広州
ユニプレス東昇大連
東風ユニプレスホットスタンプ

ユニプレスノースアメリカ
ユニプレスアメリカ
ユニプレス
サウスイーストアメリカ
ユニプレスアラバマ

ユニプレスメキシコ

マニュエットオート
モーティブブラジル

【売上比率(2017年度)】

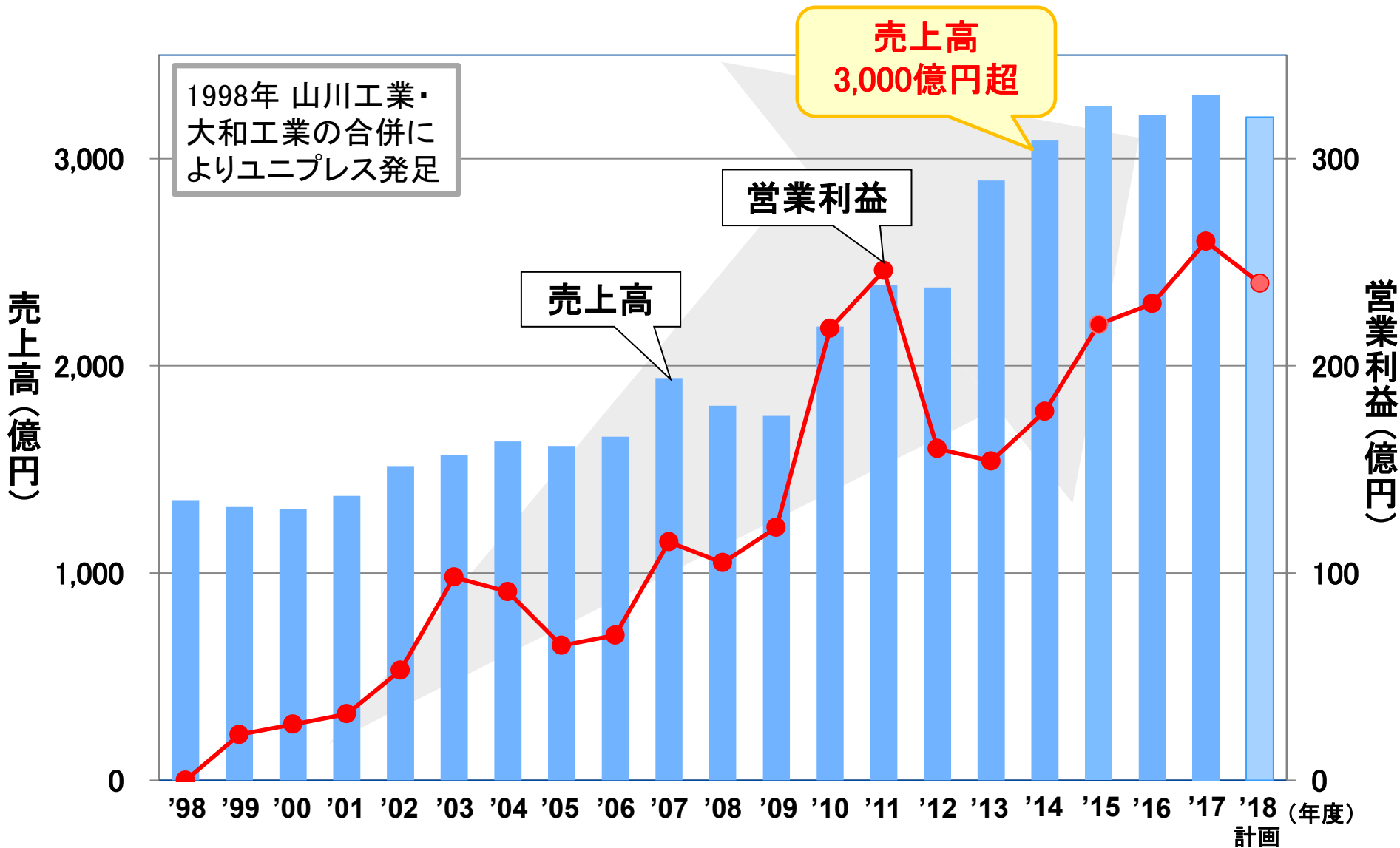


本社
ユニプレス技術研究所
相模事業所
富士事業所
栃木工場(真岡)
栃木工場(小山)

ユニプレス九州
工機工場
富士工場(富士)
富士工場(富士宮)
ユニプレス精密
ユニプレスモールド



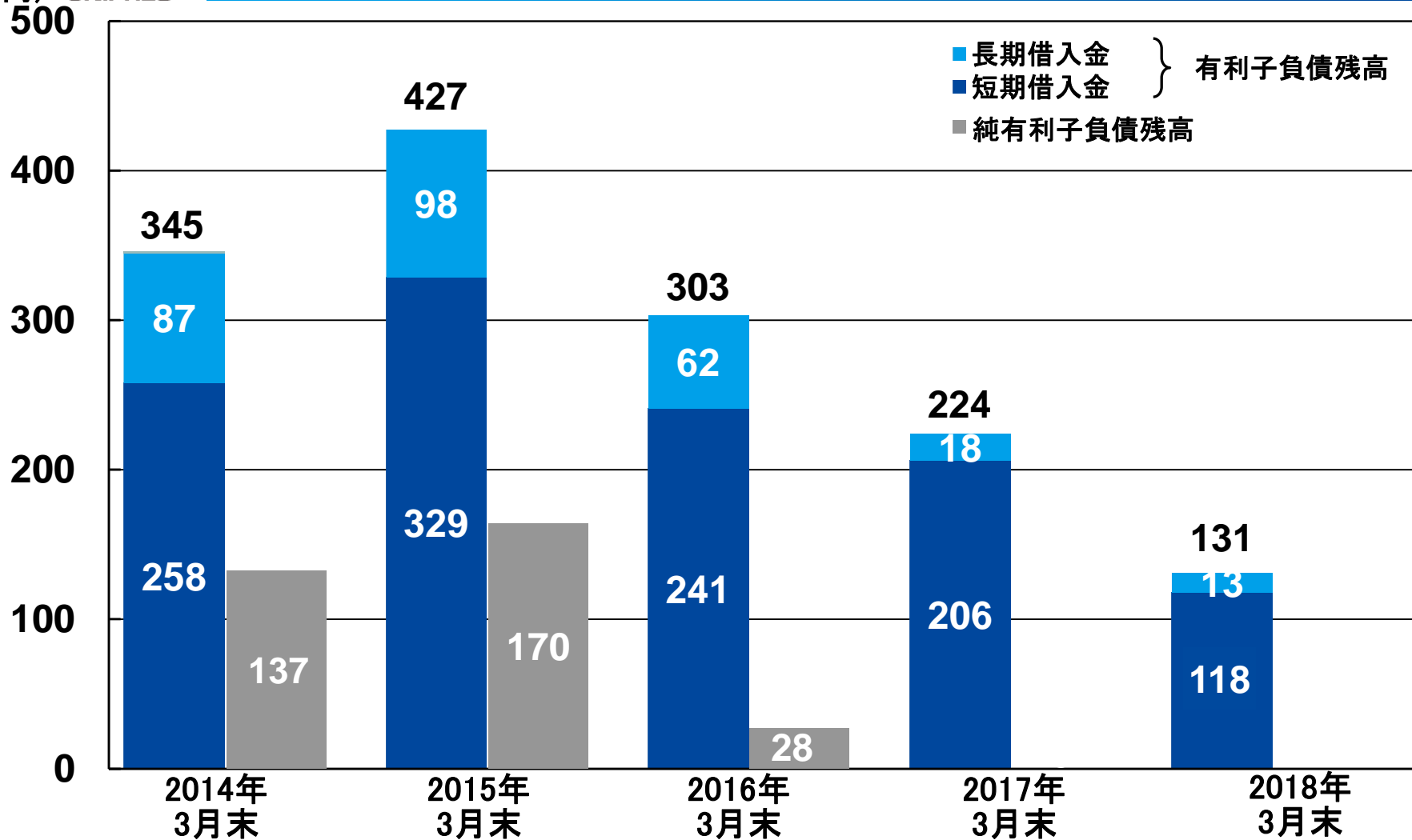
連結収益の推移





有利子負債・純有利子負債残高の推移

(億円)



・実質、無借金の状態を継続



業界内の位置づけ

【各社開示資料より】

	ヨロズ	東プレ	フタバ産業	ジーテクト	プレス工業	エフテック	エイチワン	ユニプレス
売上高			1位			3位		2位
営業利益		2位		3位				1位
経常利益		2位		3位				1位
当期純利益		1位		3位				2位
売上高 営業利益率		1位		3位				2位
資本金			1位		3位			2位
時価総額		1位		3位				2位
従業員数			2位	3位				1位

(2018年3月31日現在)



グローバルNo.1を目指す

2. ユニプレスの強みと成長戦略



成長戦略の3つのポイント

1

電動化（EV化）対応

2

ルノー・日産・三菱連合への対応

3

新規拡販の推進



1) 電動化 (EV化) 対応



自動車産業の変化

自動車産業は

『100年に一度の大変革期』を迎えている

Connected
つながる

Autonomous
自動運転

Sharing
シェアリング

Electricity
電動化

当社に大きく影響するのは電動化(EV化)

EV転換を促進する各国の規制動向

(2018年6月時点)

イギリス・フランス	2040年までにガソリン車・ディーゼル車の販売禁止へ
中国	2019年に国内販売台数10%以上を新エネルギー車に
米国(CA州等10州)	ZEV(無公害車)の販売台数16%以上を義務化



EV化の進展による当社への影響

EV化が進展すると…

当社への影響

航続距離を伸ばすため
更なる車体の軽量化が
求められる

○ 強みである軽量化技術
(ハイテン・ホットスタンプ)の
採用部位拡大

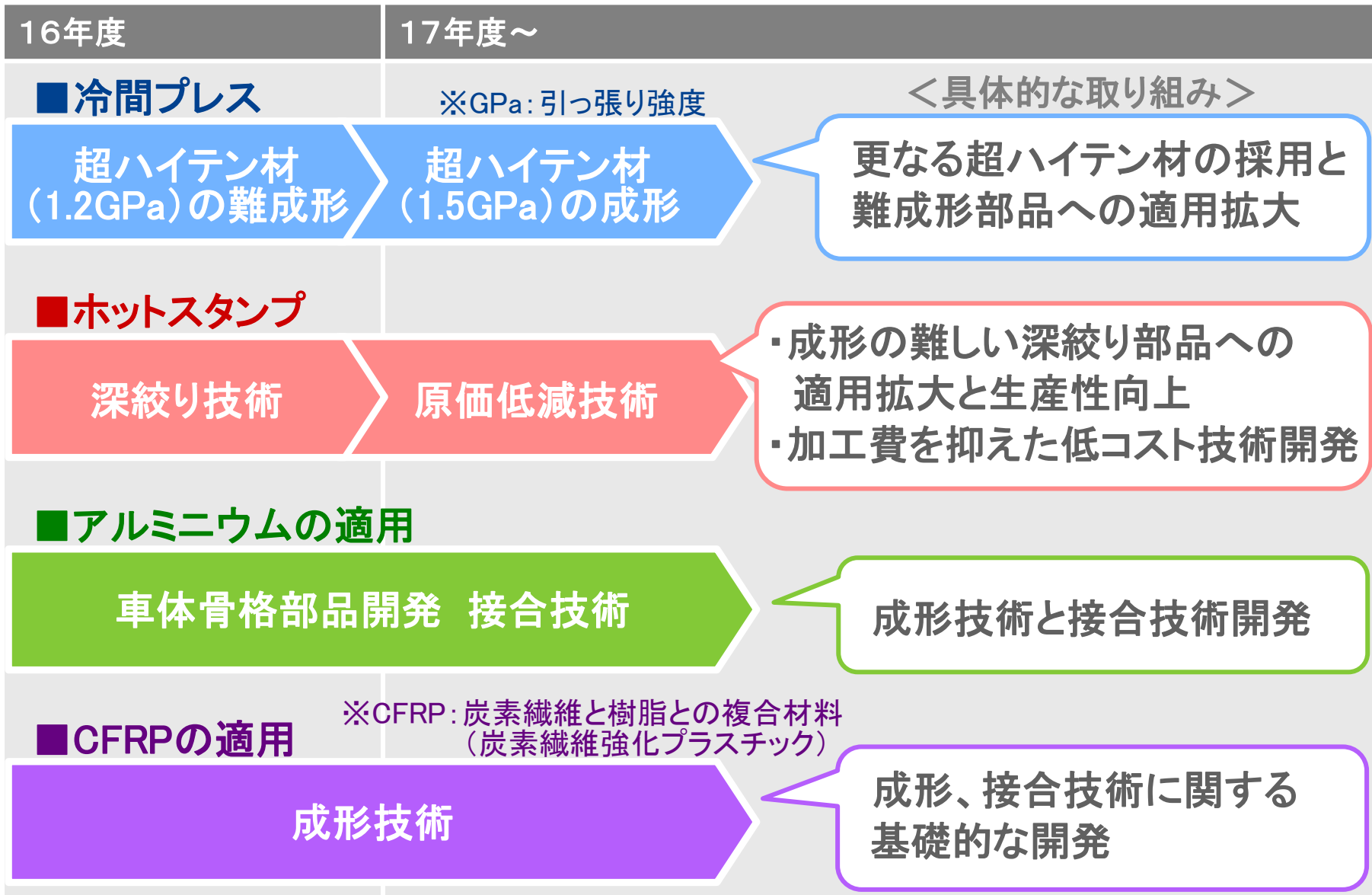
エンジン(内燃機関)が
不要になる

○ 精密プレス技術を活かした
EV部品の開発

車載用電池搭載用
バッテリーケースの
需要が増加する

○ 販売台数EV車世界一※の
「日産リーフ」バッテリーケース
生産ノウハウを活かせる

※2018年1月現在





冷間プレスによるハイテン材成形技術

ハイテン材 (高張力鋼板)

高強度な鋼板

メリット

硬く薄くできる

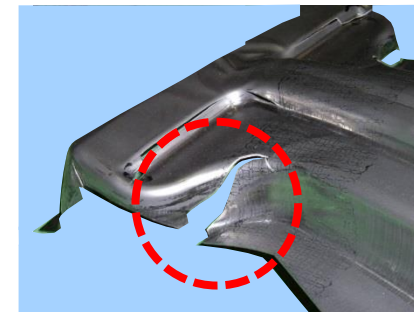
車両の軽量化

燃費向上

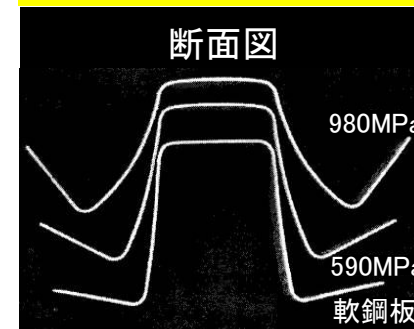
デメリット

成形加工が難しい

高度な技術が必要



割れが発生しやすい



スプリングバック

当社はハイテン材製品の開発～試作～量産が強み

高強度と軽量化の両立を実現

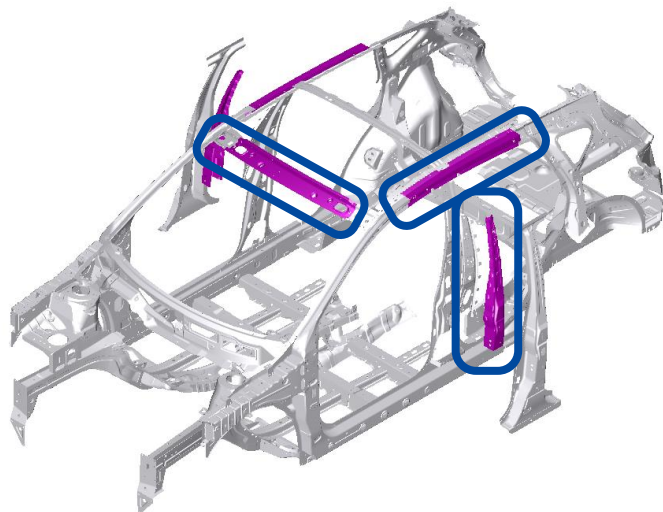


冷間プレス(1.5GPa材成型技術)

UNIPRES

<1.5GPa成形技術開発>

- 更なる軽量化を目指し、1.5GPaの成形技術開発を推進中
- 解析による成形可否判断を可能とし、下記部品について、1.5GPa材の適応目処が立った



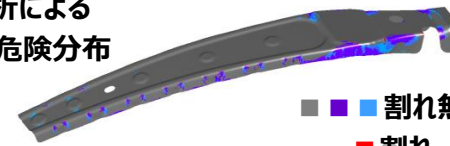
REINF-CTR PLR OTR



解析による
板厚減少率



解析による
割れ危険分布



■ 割れ無し
■ 割れ

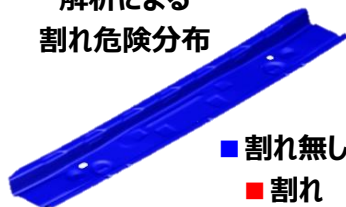


ROOF RAIL-FR



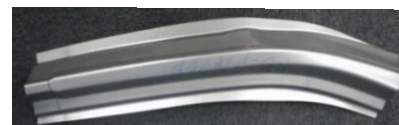
割れ・しわ等無く成形可

解析による
割れ危険分布



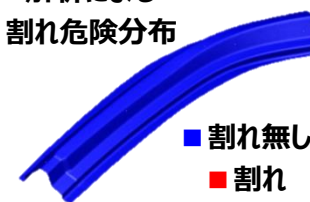
■ 割れ無し
■ 割れ

REINF FR PLR OTR DR



割れ・しわ等無く成形可

解析による
割れ危険分布



■ 割れ無し
■ 割れ

栃木工場
3000トントランスファープレス



ユニプレスイギリス

3000トン TRF
3000トン TRF
2500トン TRF

栃木工場

3000トン TRF
2500トン TRF

ユニプレスアメリカ

3000トン TRF
2500トン TRF
2500トン TRF
2000トン TRF

ユニプレス鄭州

3000トン TRF

ユニプレス九州

3000トン TRF
3000トン TRF
2500トン TRF

ユニプレスアラバマ

3000トン TRF

ユニプレスインド

2000トン TRF

ユニプレス サウスイーストアメリカ

3500トン TRF
2500トン TRF

ユニプレス広州

3000トン TRF
2500トン TRF
2000トン TRF

ユニプレスメキシコ

3000トン TRF
2500トン TRF
2500トン TRF
2000トン TRF

ユニプレス インドネシア

2000トン TRF

マニュエットオート モーティブブラジル

2000トン TRF

TRF: トランスファープレス

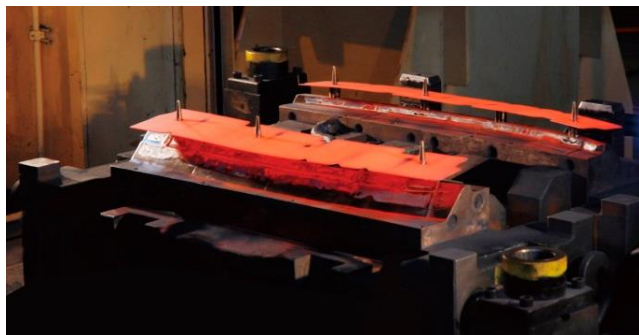
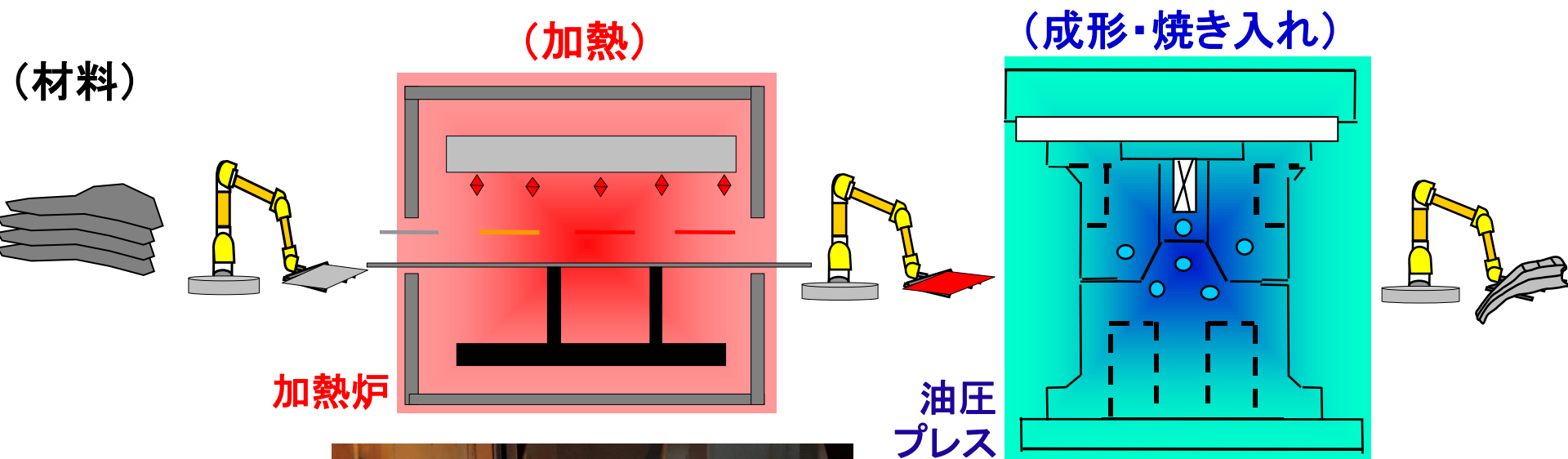
- ・ハイテン部品を量産できる大型トランスファープレス(2000～3500トン)を
全世界に26台導入済み



ホットスタンプ工法

ホットスタンプ工法

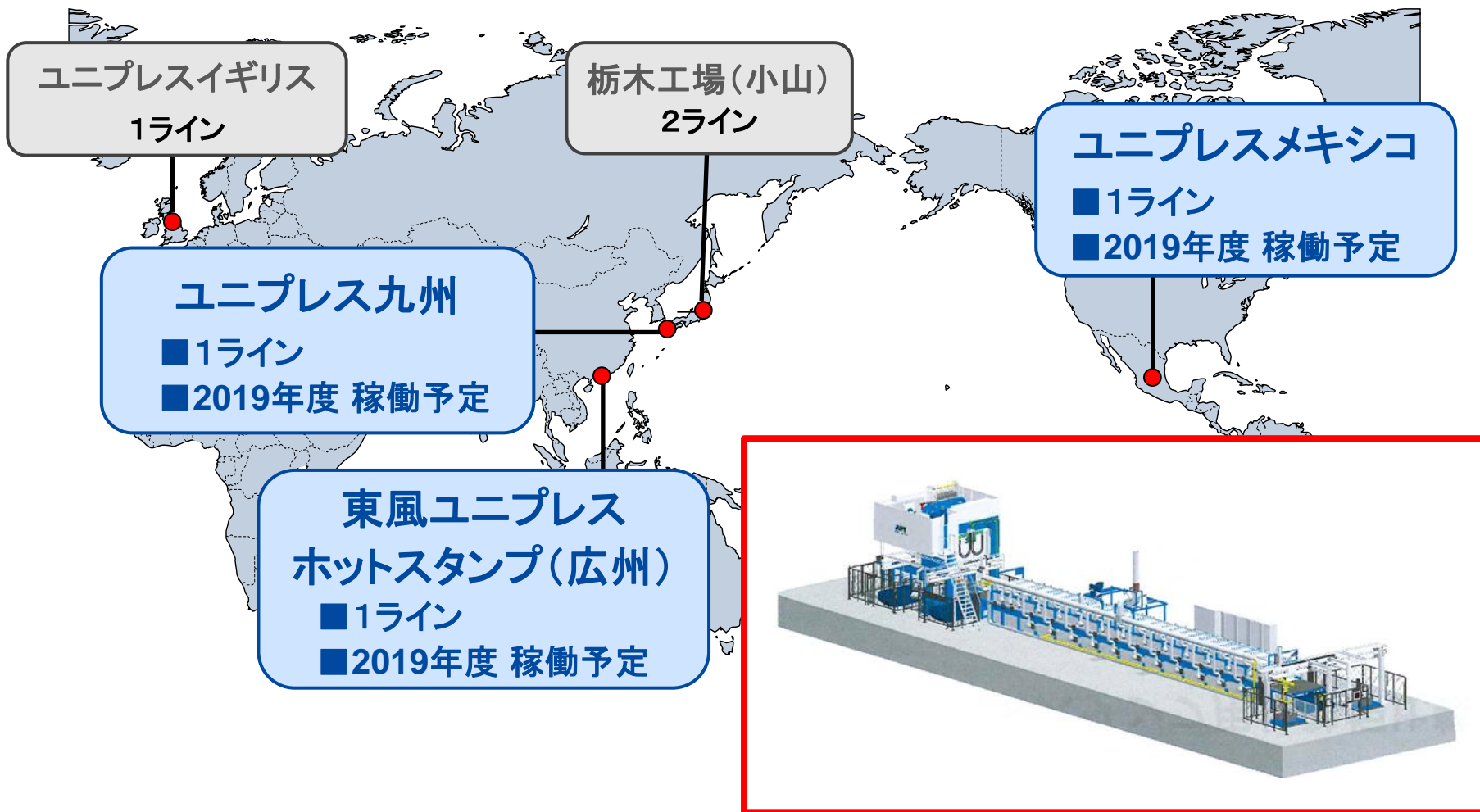
鋼板を加熱し、プレス成形と同時に急速冷却することで
焼き入れを行い、1.5GPa以上の高強度製品の加工を実現





ホットスタンプ(導入計画)

今後の新車受注にあわせて追加導入を検討

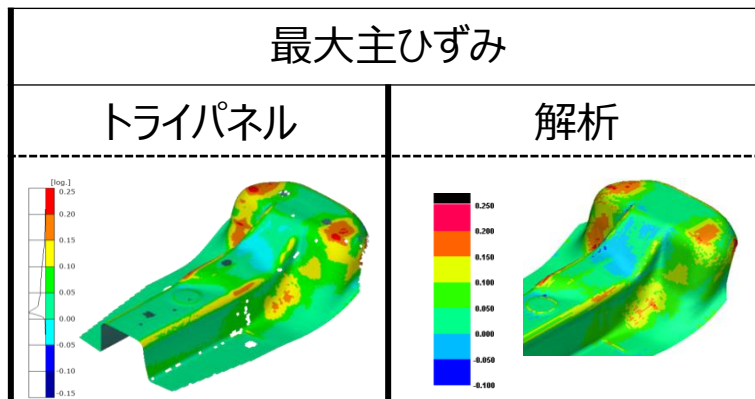




アルミ材対応

アルミ車体骨格部品に対応できる技術開発を推進中

■ 成形技術（厚板ドロ一部分成形と予測技術）



・材料パラメータと最適な摩擦係数の設定により解析評価を可能とした

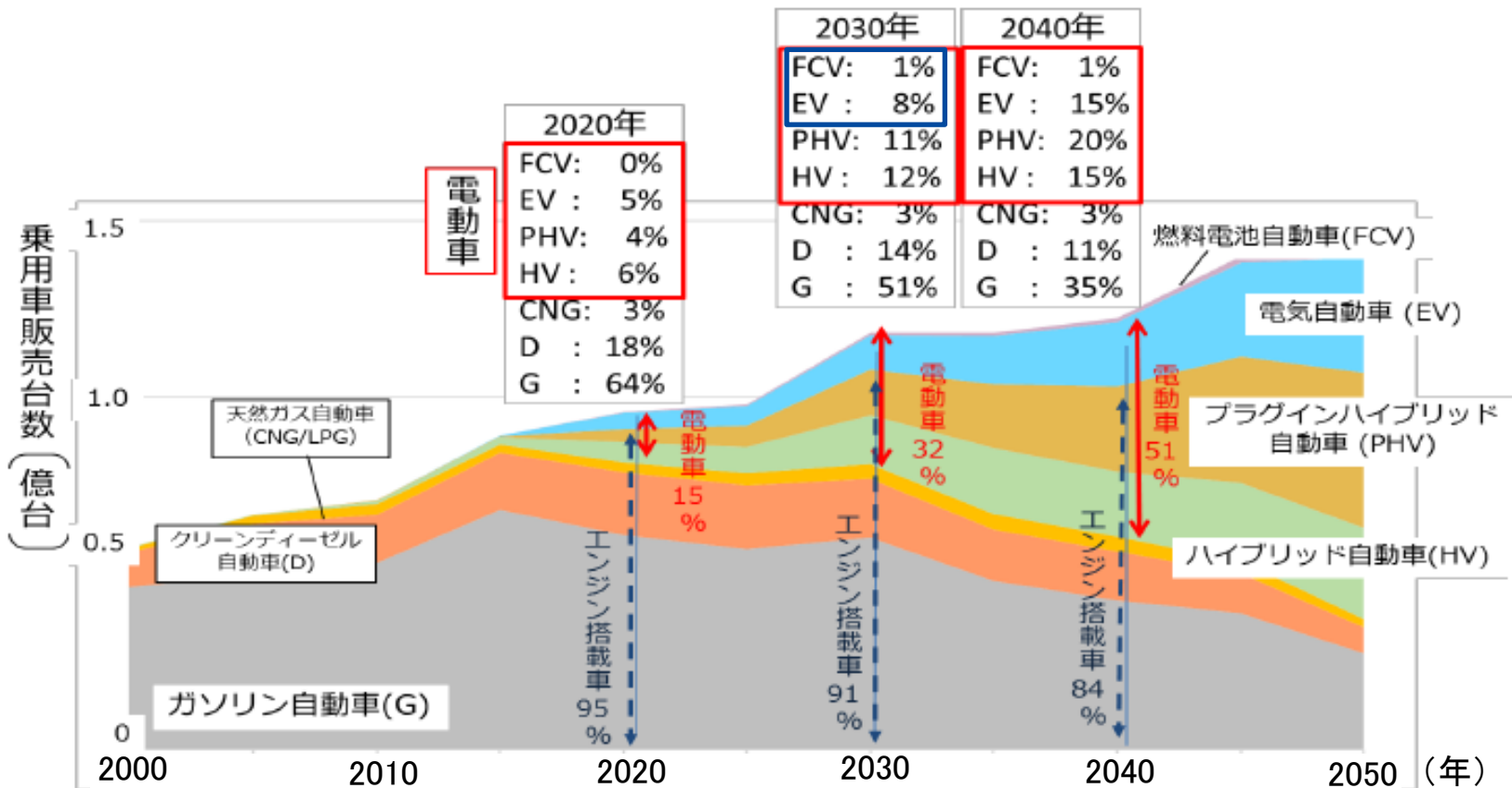
■ 接合技術

- RSW技術 (Resistance Spot Welding)
 - アルミ 抵抗スポット溶接によるプレス部品接合技術推進
 - SPR技術 (Self-Pierce Rivet)
 - FDS技術 (Flow Drill Screw)
- } プレス部品とダイキャスト・押し出し部品
接合技術推進

■ 電気自動車・燃料電池自動車の比率: 2030年で9% (IEA予測)

・エンジン搭載車の生産はまだ伸びるため、トランスミッション部品の拡販は継続

・2030年以降の電気自動車比率の拡大に備え、技術開発を推進



経済産業省「自動車新時代戦略会議(第1回)資料」より抜粋 (出所) IEA「ETP(Energy Technology Perspectives) 2017」に基づき作成



2) ルノー・日産・三菱連合への対応



共通プラットフォームについて

プラットフォームとは・・・フレームやサスペンション、ステアリング、パワートレインといった車を構成する基本部品の一連の組み合わせのこと



日産「エクストレイル」



日産「ローグ」



ルノー「カジャー」



ルノー「コレオス」

例えば、上記4車種は、同じプラットフォームを使用

ルノー・日産・三菱は、共通プラットフォームの使用を増やし、2022年までに4つのプラットフォームで900万台以上をカバー
(ルノー・日産・三菱 新6か年計画「アライアンス2022」より)



共通プラットフォーム車向けの部品の受注は非常に重要



日産車の受注状況／拡販戦略

キックス・マイクラ (Bプラットフォーム車)



テラ



アルティマ



インフィニティ QX50

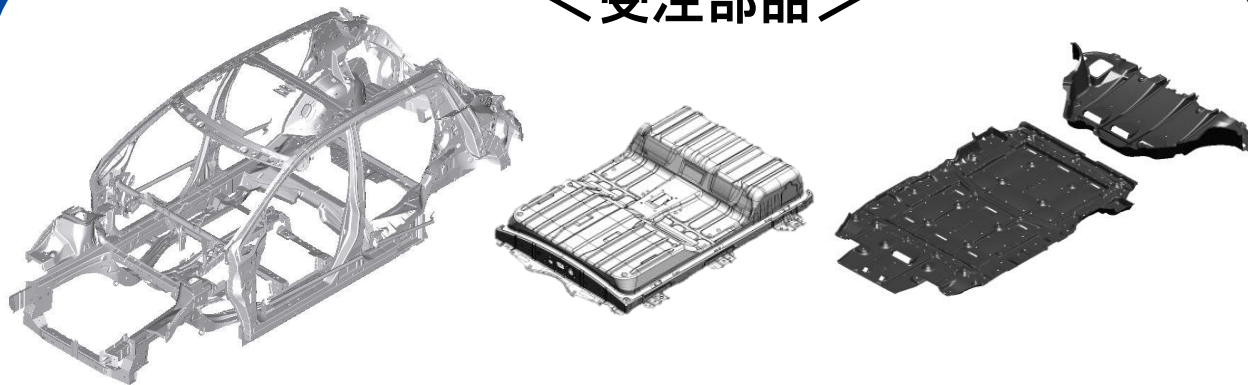


- ・ 日産の全乗用車について、今後も確実な受注をグローバルで狙う



日産 新型リーフ

＜受注部品＞



骨格部品ほぼ全量・バッテリーケース・
樹脂アンダーカバーを受注

日産：2022年度までに新EV車3車種開発
(ルノー・日産・三菱アライアンス：12車種発売)



リーフのバッテリーケース独占生産の実績を活かし、
今後開発されるEV車のバッテリーケース受注を狙う



ルノー車の受注状況／拡販戦略

イギリス

●カジャー

中国(東風ルノー)

●カジャー

●コレオス

インド

●ロッキー

●ダスター

●キャプチャー



カジャー



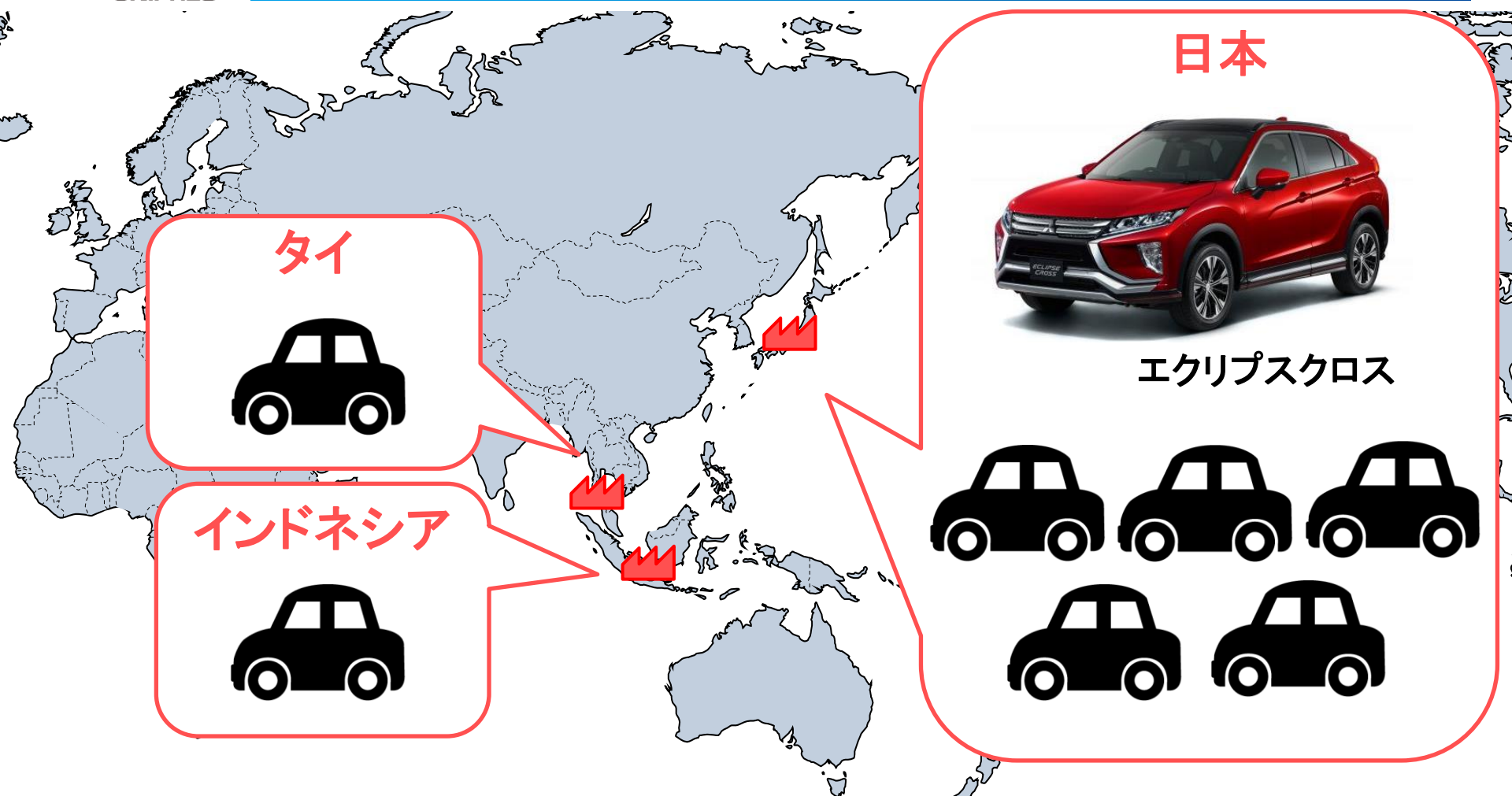
キャプチャー

【2018年度】

アジア地域で1車種立上げを計画

【2019年度～】

日産との共通プラットフォーム車を
中心に受注を狙う



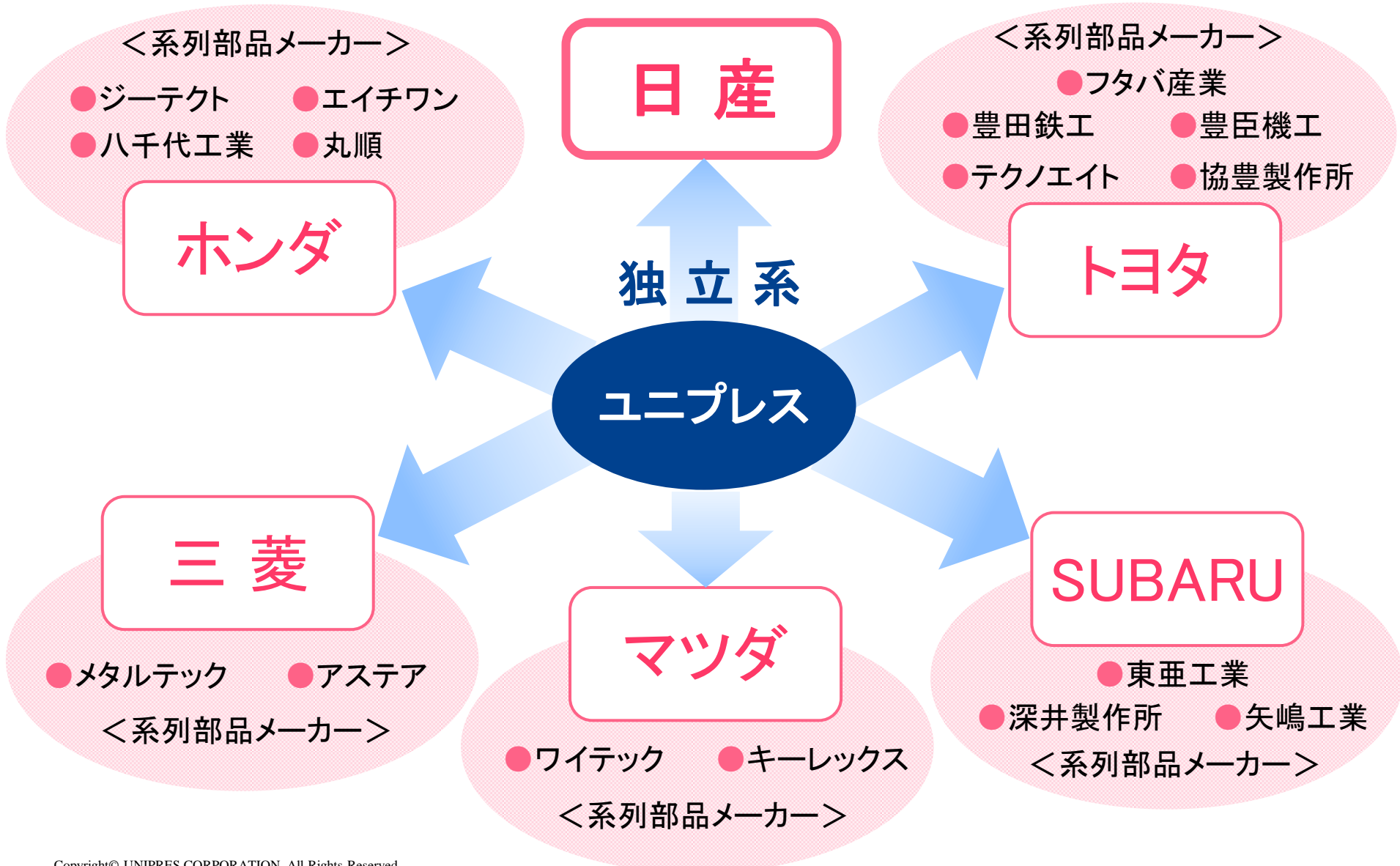
- ・三菱系サプライヤーである(株)メタルテックとの協業により、日産との共通プラットフォーム車を中心に受注を狙う



3) 新規拡販の推進



自動車メーカーと自動車部品メーカー



ホンダ

車体プレス製品・
トランスミッション用プレス製品・
樹脂プレス製品すべてに
おいて一番の拡販先

トヨタ

トランスミッション用
プレス製品の拡販を狙う
(納入先:アイシンAW)

三菱

日産との共通プラット
フォーム車を中心に
新規拡販を狙う

SUBARU

トランスミッション用
プレス製品を
中心に拡販

マツダ

車体プレス製品・
樹脂プレス製品を
中心に拡販

ホンダ車の受注状況／拡販戦略



【ホンダ向け売上高】

(億円)

25

200

インドネシア

メキシコ

イギリス

アメリカ

日本

7年で8倍に



2011年度
実績

2018年度



シビック



オデッセイ

・ホットスタンプ部品を中心に、グローバルで受注拡大を狙う



インドネシアの受注状況／拡販戦略



日野自動車「レンジャー」



スズキ「エルティガ」



トヨタ「イノーバ」



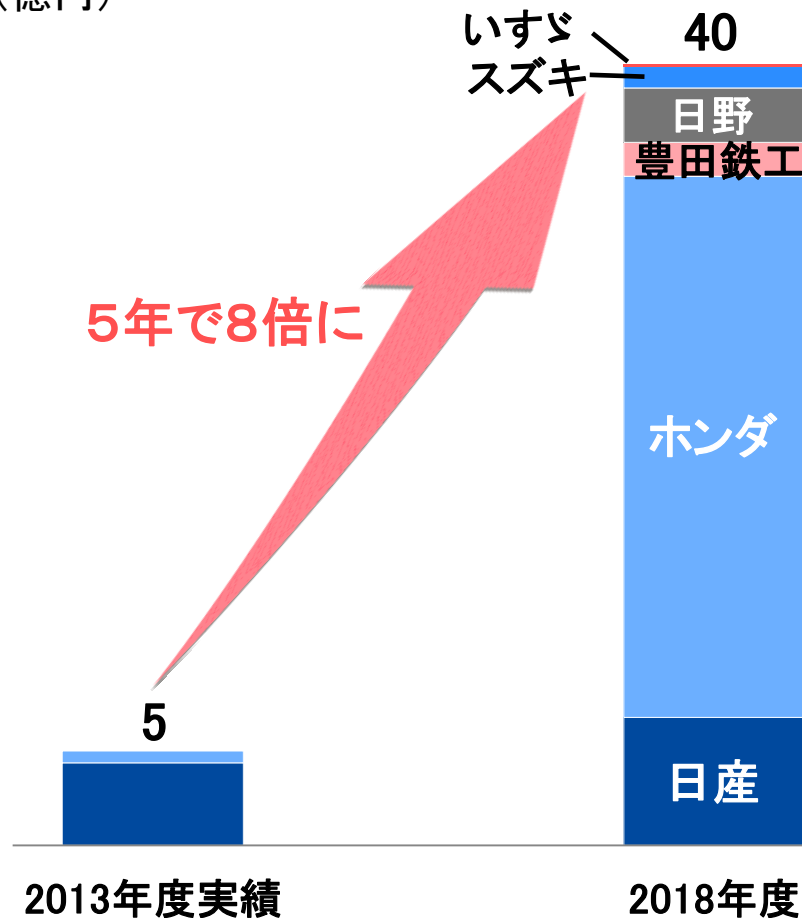
トヨタ「フォーチュナー」



いすゞ自動車「トラガ」

【ユニプレスインドネシア売上高】

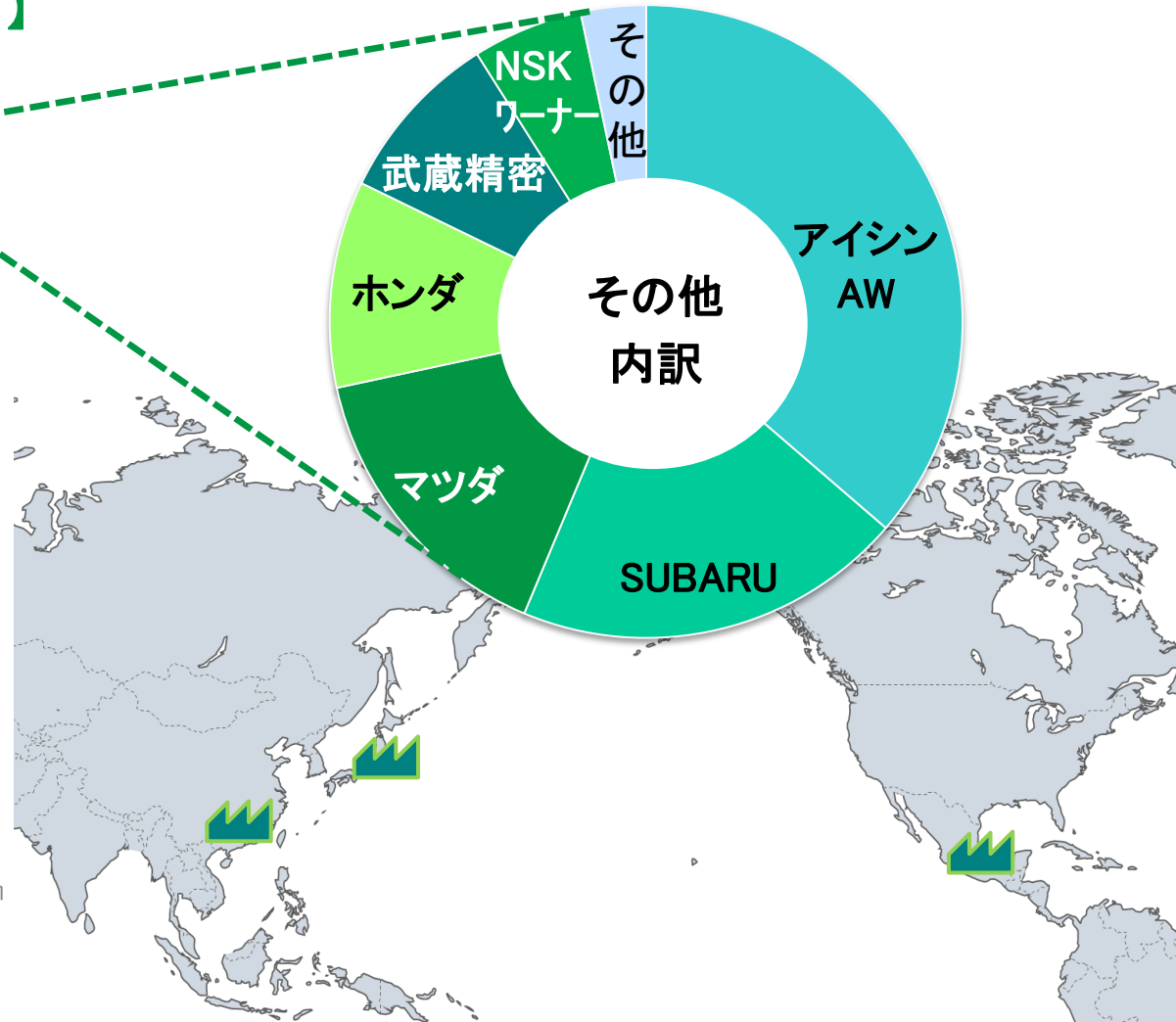
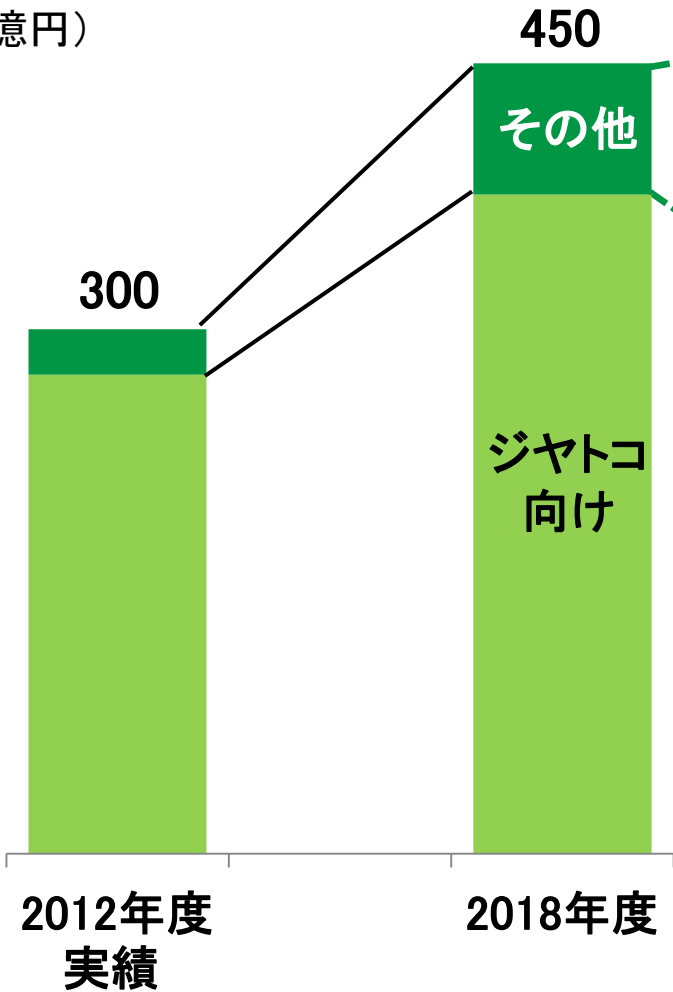
(億円)



・ 積極的な拡販活動により、多くの自動車メーカーより受注。今後、更に拡大を目指す

【トランスミッション部品事業売上高】

(億円)

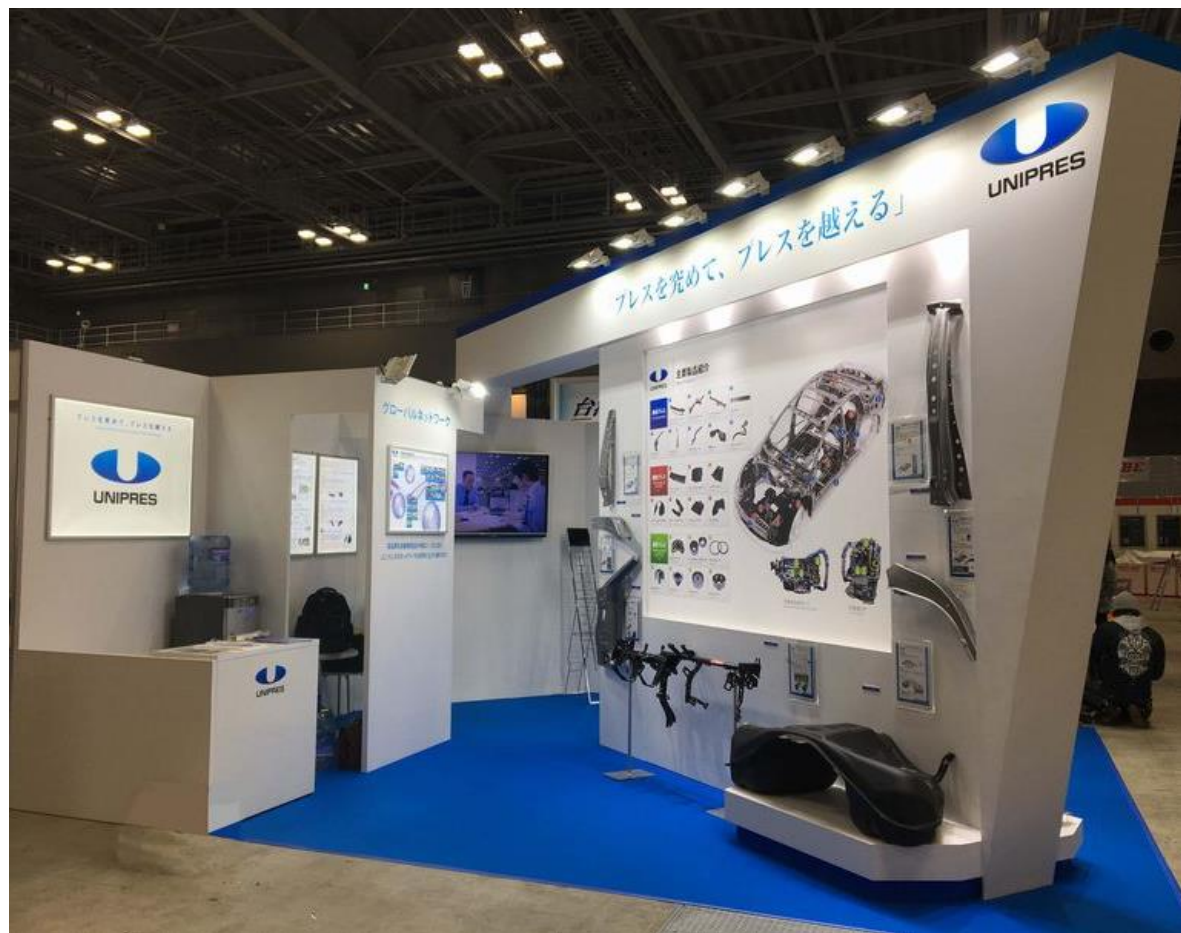


・ ジェイトコに加え、アイシンAW・SUBARU・ホンダを中心に拡販を推進し、事業拡大をはかる



『オートモーティブ ワールド2018』出展

自動車技術の展示会「オートモーティブ ワールド」に初出展。
カーメーカーを中心とした来客者に当社技術を積極的にPR



【オートモーティブワールド2018】
会期:2018年1月17日~19日
会場:東京ビッグサイト





3. 中期経営戦略

【経営理念】

「プレスを究めて、プレスを越える」

■ 目指すべき企業の姿

1. 市場ニーズを先取りした技術開発型企业
2. 競争力No.1を維持するコスト開発型企业
3. 自動車産業構造変化に対応したグローバル戦略企業

■ 中期経営方針

グローバルNo.1企業をめざし、UPS活動の推進により収益力と競争力を強化する。

※UPS活動(Unipres Production System)

全ての仕事の“ムダ”を発見し、仕事の仕組みを改革することで「収益力」「競争力」のある体質を作り上げる経営改革活動

経営の重要な4つの課題と取り組み

1. グローバルな生産基盤の活用・強化

■ビジネスの拡大

- グローバル拡販（ルノー・三菱・ホンダ）
- 自動車産業変革への対応

■9カ国16拠点

- 生産基盤の更なる強化

2. 技術開発の推進

■新製品・新技術の開発

- 超ハイテン／ホットスタンプ／アルミ化対応技術
- 電動化対応技術
- 生産技術革新

■外部との共同研究拡充

- 高炉メーカー、自動車メーカー

3. 業界トップレベルの競争力

■コスト競争力強化

- UPS活動の更なる向上
- 15KPI ※Key Performance Indicator

■品質の向上

- 自動化の推進／AIの応用

4. ESG投資等を意識した企業行動

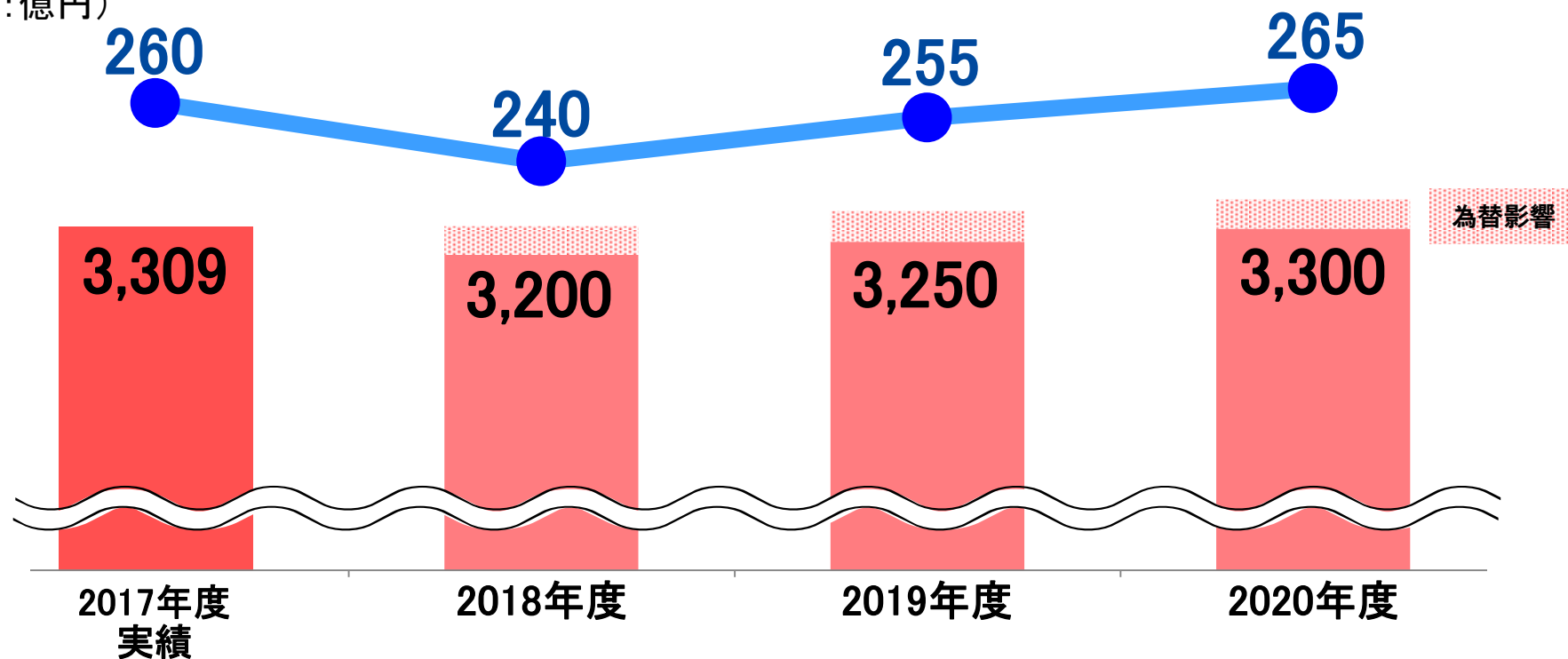


中期経営目標

- 売上高 … 着実な成長を持続
- 営業利益 … 売上高営業利益率8%を維持

■ 売上高 ● 営業利益

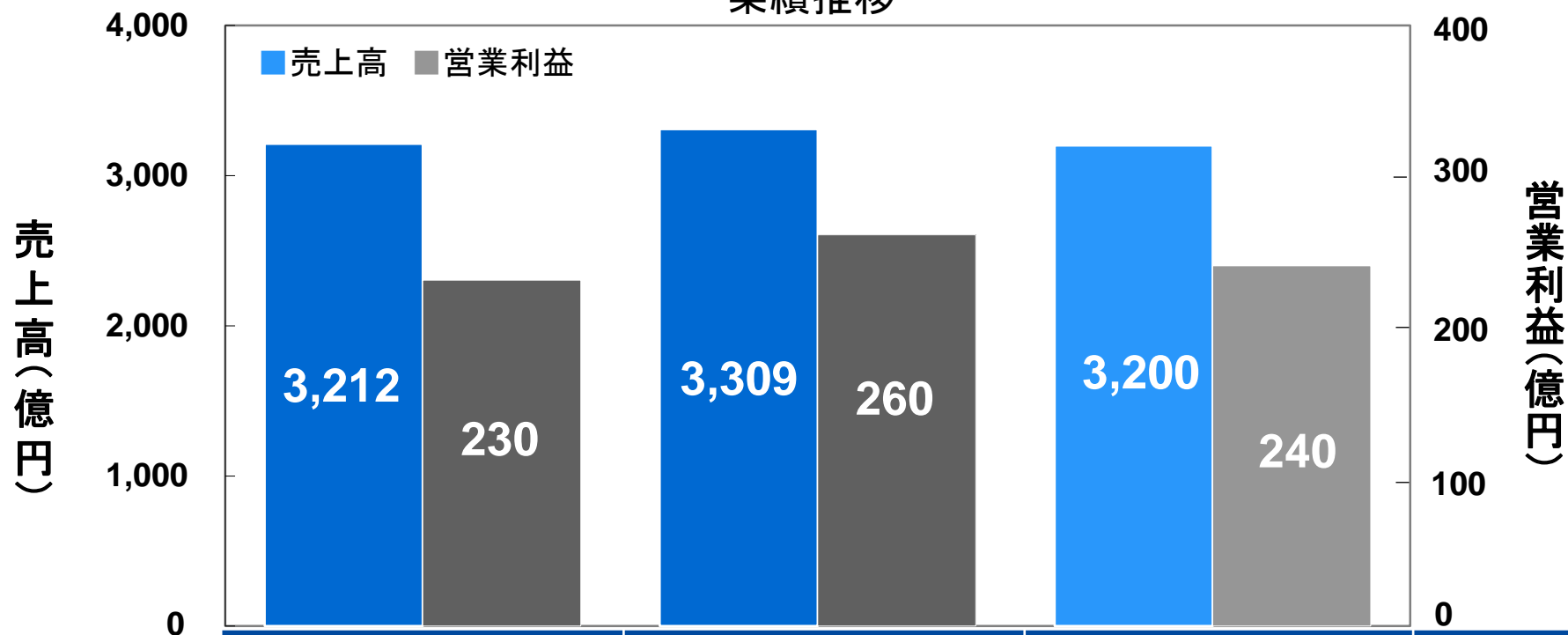
(単位: 億円)





2018年度連結業績計画

業績推移



	2016年度	2017年度 (A)	2018年度 計画 (B)	(B)-(A)
売上高	3,212	3,309	3,200	-109
営業利益	230	260	240	-20
経常利益	230	264	245	-19
親会社株主に帰属する当期純利益	144	159	150	-9

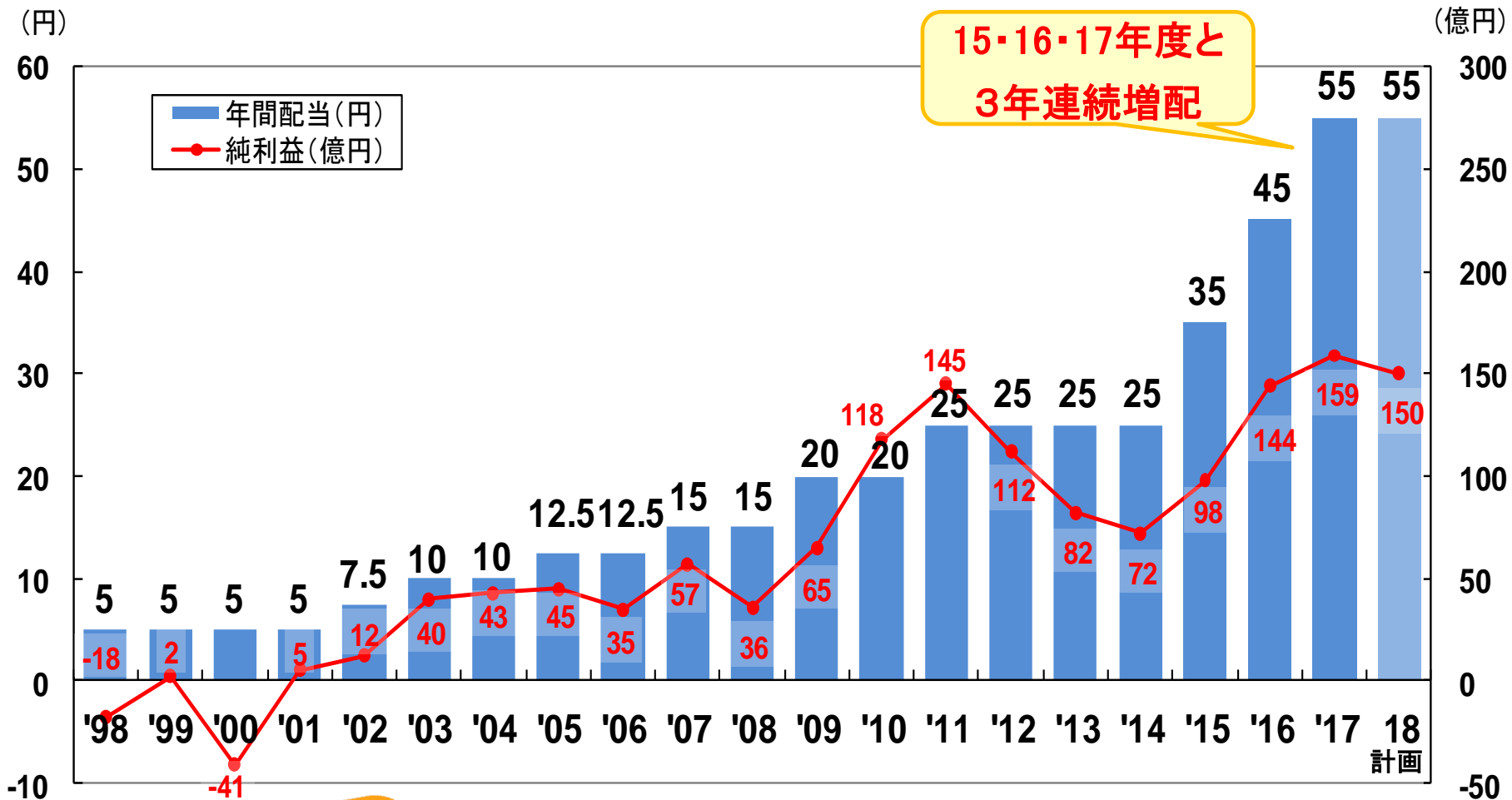


配当・株主優待制度を継続的に実施する

4. 株主還元



当期純利益・配当金推移



! Point

2018年度は55円を計画



ポイント制 株主優待サービス

- 株主様に中長期的に当社株式を保有いただくため、長期保有優遇の株主優待制度を継続実施

長期保有するほどポイントが増加！

株式数	期間	1年未満	1年以上 3年未満	3年以上
	100株以上		1,000	2,000
1,000株以上		2,000	3,000	4,000
3,000株以上		3,000	4,000	5,000

・3月31日現在の株主名簿に記載された株主の皆様が対象



**保有株式数・期間に応じて、
年1回ポイントを贈呈**



選べる！バラエティ豊かな優待商品

株主優待商品過去実施例

QUOカード

社会貢献型QUOカード



このクオカードの購入代金の一部は、東日本大震災被災地の子どもたちを笑顔にするための活動に使われます。

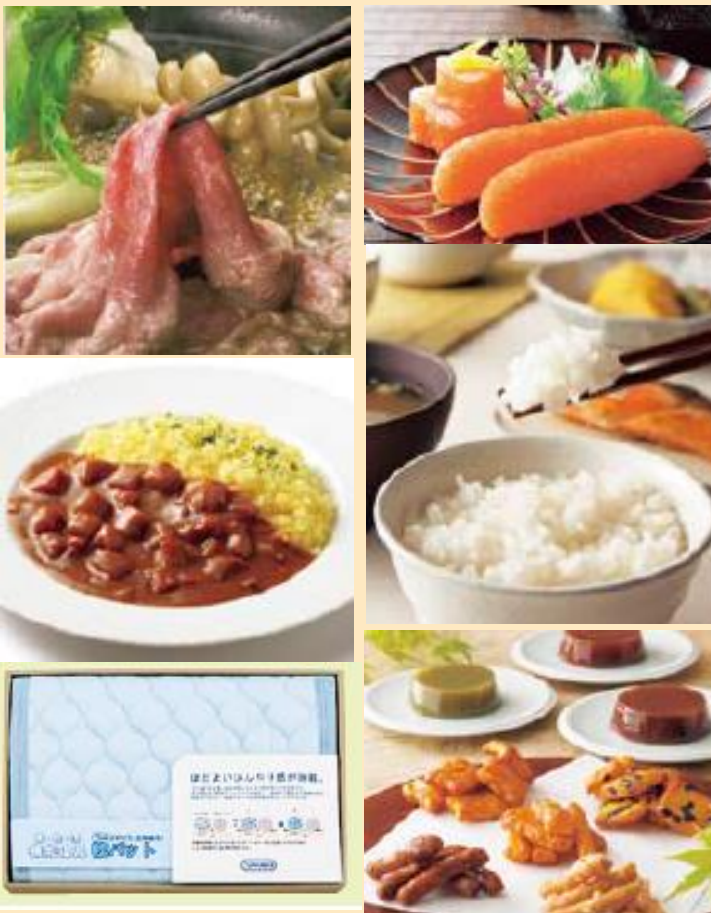
ユニプレスオリジナルグッズ

ユニっぷちゃんケース入り スマイルマーブルチョコ



! Point

食品・雑貨など数十点



環境・社会貢献活動団体への寄付



- ・more treesへ寄付
- ・交通遺児等育成基金へ寄付



ポイントに応じて、オリジナルカタログから好きな商品が選べる



定時株主総会：終了後には懇親会を開催



株主総会
日時：2018年6月21日（木）
場所：新横浜プリンスホテル



株主総会にご出席
いただいた株主様へ
お土産もご用意！

! Point

総会後は役員との株主懇親会を開催



JPX-NIKKEI Mid Small

- 初年度から「**JPX日経中小型株指数**」の構成銘柄に選定（2017年3月13日～）

JPX日経中小型株指数（略称：JPX日経中小型）

東京証券取引所、日本経済新聞社が共同で開発した、「投資家にとって投資魅力の高い」中小型株で構成する新しい株価指数（構成数は200銘柄）



UNIPRES

より詳しい情報は、ユニプレス株式会社の
ウェブサイトをご覧ください。

<https://www.unipres.co.jp>

設立	1945年3月1日 【1998年4月1日山川工業(株)・大和工業(株)合併】
事業内容	自動車部品の製造及び販売
資本金	100億8,056万4,250円 (2018年3月31日現在)
売上高(連結)	3,309億円 (2018年3月期)
上場取引所	東証第一部 【証券コード:5949】
従業員数(連結)	10,014人 (2018年3月31日現在)
本社所在地	神奈川県横浜市港北区新横浜1-19-20



ステークホルダーとの相互理解や信頼関係を築きながら、成長を維持し、社会の持続的な発展につなげるための取り組みを実施



【環境】

再生可能エネルギーの導入

温室効果ガスの排出低減策の一貫として、国内各拠点に太陽光発電システムを設置

グリーン調達への取り組み

「ユニプレスグリーン調達ガイドライン」を制定。サプライチェーン全体で環境保護活動を推進

【社員】

グローバル人財の育成

グローバル人財としての基礎力を身に付けるため、海外留学制度を導入





【地域社会】

グループ全体で取り組む寄付活動

森林保全団体「more trees」や「交通遺児等育成基金」へ寄付。また、海外グループ会社においても生活用品や食糧等の寄付を通して、地域へ貢献



スポンサーシップ

「全日本 学生フォーミュラ大会」
横浜F・マリノス「トリコロールクラブ」
「ヨコハマ・ヒューマン&テクノランド」等に協賛



子供たちの工場見学

各拠点の近隣小学校の工場見学の受け入れや、従業員の子供たちを招いて「かぞく工場見学会」を実施



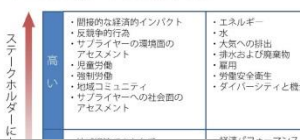
CSR マネジメント

マテリアリティ

ユニプレスグループは、当レポートを作成するにあたり、グローバルに事業を展開する上での重要性、これまでのステークホルダーとの対話や関わりを踏まえて、「ステークホルダーにとっての重要度」「ユニプレスグループにとっての重要度」の2つを指標軸として、マテリアリティ分析を実施しました。(下表参照)

マテリアリティ分析では、「IR1スタンダード」の項目を参考にレベル分けしています。今後も、社会の状況、ステークホルダーの意見を反映したマテリアリティ分析を行い、必要に応じて見直しを行っています。

<ユニプレスグループのマテリアリティ>



グループ会社の取り組み

国内外のグループ会社でも様々な取り組みをしています。2017年度に実施した一例をご紹介します。

◆経済産業省中国経済産業局「省エネ活動」表彰受賞【ユニプレスモールド】
平成29年度省エネルギー月間 中国地区表彰式において、広島工場が、成型工程での部品運搬などで使用していた真空発生器を真空ポンプへと置換え、消費電力が約40%削減できたことなどを評価され表彰されました。



◆30本の木を植樹し緑化活動を推進【ユニプレス郡州会社】
2017年3月12日、中国の緑樹が40周年を迎えました。これにあたり、緑化活動を推進しようと70名の社員が30本の木を植えました。植樹活動はユニプレス郡州創業者から実施しており、今後も環境保護意識を高めていきます。



トップメッセージ

「誠実性」から「信頼性」へ
安全性と信頼性の両面で、プレス技術で応えてまいります

昨年、改めて「ユニプレスCSRレポート2017」を公開いたしました。資料の大半が半世紀以上の歴史を誇る、あらゆる社会からの信頼と期待への誠意と熱意の結晶であり、誇りある成果です。それらを通じて、よりよい社会の実現を期すとともに、



当社は対外的な社会的責任を遂行するとともに、会社員が活躍できる環境を、先ず社員一人ひとりに、安全と健康を第一とする心でサポートするとともに、新しい価値を創り出しています。その過程、IR活動も重要な役割を担っています。ユニプレスグループは、社会に貢献し、社会から信頼される企業を目指してまいります。2018年度は売上高2,000億円、従業員総数200億円にまで成長することをめざします。

この20年の間に、リーマンショック、東日本大震災など、深刻な社会課題に直面。自動車メーカーの競争激化、小売業の激変、IT産業の急激な成長など、変化の激しい時代を迎えています。中でも、自動車に求められる技術的進化は、ますます「誠実性」「信頼性」が求められるようになってきています。「誠実性」の向上が信頼性につながることは、「信頼性」が企業の成長を支えることと同様に、社会が「誠実性」と「信頼性」を両立させることは、企業にとって不可欠な要素として認識されています。当社は、社会的責任の観点から、安全と健康を第一とする心でサポートするとともに、

当社の持つユニプレス技術を通じて、安全と健康を第一とする心でサポートするとともに、

行務部長 佐藤和久 高橋 直樹

ユニプレス CSR レポート 2018

UNIPRES CSR Report 2018

ユニプレス株式会社

《2017年度 IR 活動の主な取り組み》

株主総会・株主懇談会

ユニプレスの定例株主総会は、事業報告をビデオ化しわかりやすくすることで、株主の皆さまの理解促進に努めています。また、株主総会終了後は、同会場に株主懇談会を開催しています。軽食をとりながら、得るご質問の中で当社の役員と直接、意見交換や質問ができると、毎年好評をいただいています。



決算説明会

ユニプレスでは、機関投資家・アナリスト向けに決算説明会を定期的に開催し、社長執行役員をはじめ関係役員出席のもと、決算内容や事業の状況について直接投資家の皆さまにご説明しています。2017年度は5月と11月に実施しました。また、他にもスモールミーティングや個別の取材対応など、投資家の皆さまとの対話の機会を積極的に設けています。



個人投資家向け IR イベント

ユニプレスは、毎年個人投資家向けに会社説明会を開催し、IRイベントへの出席を行っています。2017年度は、全国18か所で開催を実施しました。事業内容や当社の強み、財務状況、株主還元などについてご説明し、多くの個人投資家の皆さまに当社への理解を深めていただくことができました。



アンケートの実施

当社の IR 活動についての質問を中心としたアンケート調査を、株主の皆さま向けに、株主サポートサービスの申込は及びウェブサイトにて実施しています。また、個人投資家の皆さまを対象としたウェブアンケートを2017年度は2回実施しました。皆さまのご意見を IR 活動に役立てています。

・ユニプレスCSRレポートをウェブサイトに掲載しておりますので、ぜひご覧ください。

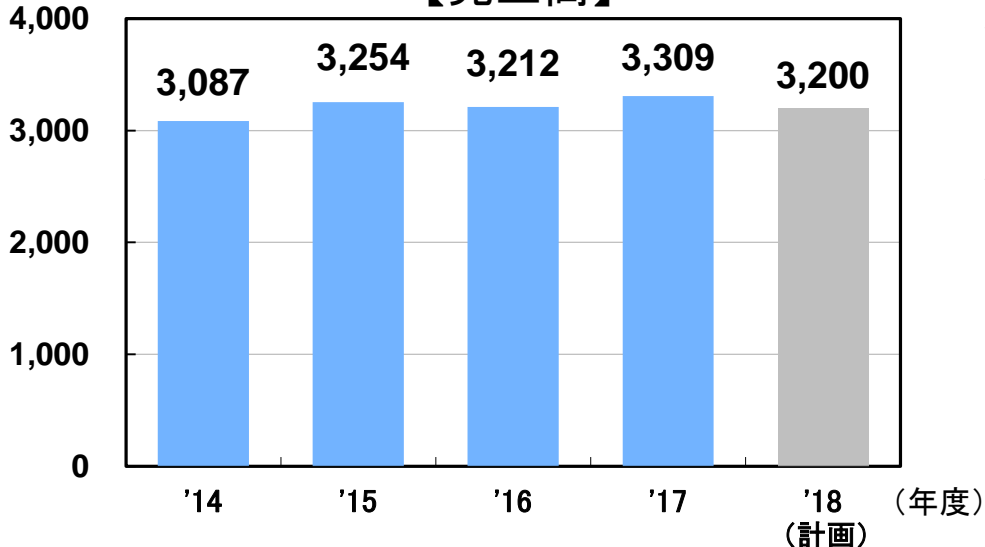


主要業績推移

参考資料

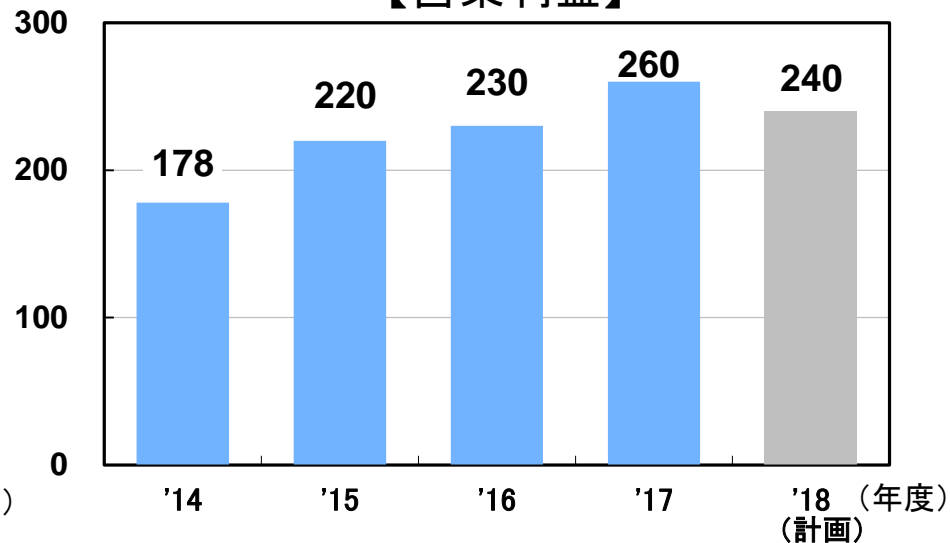
(億円)

【売上高】



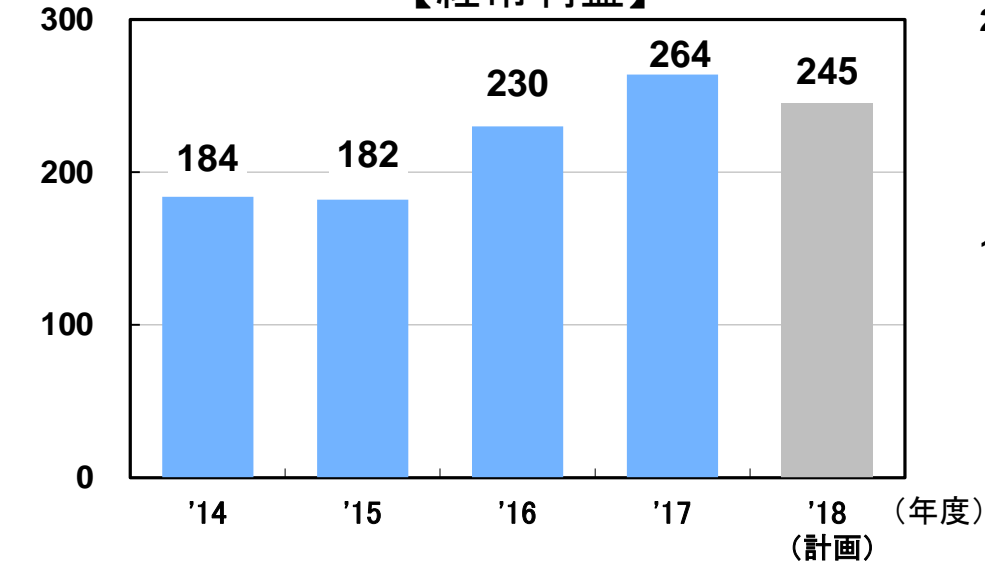
(億円)

【営業利益】



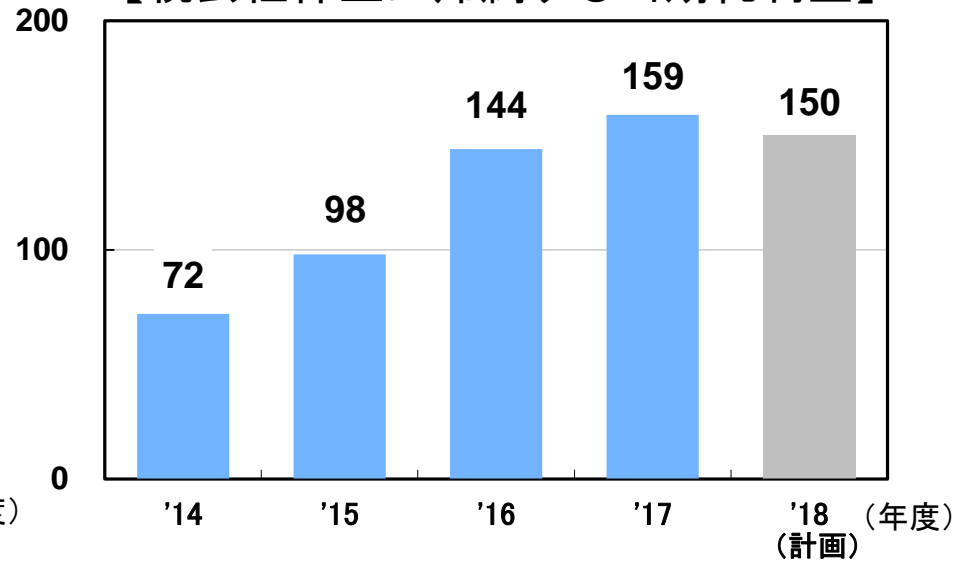
(億円)

【経常利益】



(億円)

【親会社株主に帰属する当期純利益】





UNIPRES

財務ハイライト

参考資料

	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度
売上高(百万円)	289,491	308,739	325,423	321,168	330,890
営業利益(百万円)	15,435	17,796	22,033	23,025	26,047
経常利益(百万円)	17,518	18,363	18,186	23,034	26,447
親会社株主に帰属する 当期純利益(百万円)	8,208	7,207	9,750	14,379	15,949
1株当たり当期純利益(円)	175.19	170.89	217.81	315.89	333.55
1株当たり配当金(円)	25.00	25.00	35.00	45.00	55.00
総資産(百万円)	210,955	238,356	233,274	241,052	250,712
純資産(百万円)	109,081	121,375	129,253	135,320	154,678
自己資本比率(%)	48.5	47.5	51.6	52.5	57.5
1株当たり純資産(円)	2,431.88	2,681.93	2,674.58	2,648.03	3,016.02
有利子負債残高(百万円)	34,496	42,777	30,333	22,445	13,143
営業活動による キャッシュフロー(百万円)	38,255	25,701	29,107	33,430	33,174
投資活動による キャッシュフロー(百万円)	△30,783	△25,911	△18,613	△20,038	△22,917
財務活動による キャッシュフロー(百万円)	2,001	3,392	△6,449	△4,148	△12,669



UNIPRES

主な財務指標

参考資料

	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度
売上高営業利益率(%)	5.3	5.8	6.8	7.2	7.9
売上高経常利益率(%)	6.1	5.9	5.6	7.2	8.0
総資産経常利益率 (ROA)(%)	9.3	8.2	7.7	9.7	10.8
自己資本当期純利益率 (ROE)(%)	8.2	6.7	8.3	11.6	11.8
EBITDA(百万円)	34,756	37,989	36,975	42,035	45,635
売上高EBITDA率(%)	12.0	12.3	11.4	13.1	13.8
EV/EBITDA倍率(倍)	2.6	3.2	2.5	2.3	2.1
配当性向(%)	14.3	14.6	16.1	14.2	16.5
純資産配当率(%)	1.1	1.0	1.3	1.7	1.9
配当利回り(%)	1.3	1.0	1.8	1.9	2.3
PER(倍)	10.6	14.3	9.0	7.3	7.2
PBR(倍)	0.76	0.91	0.73	0.88	0.80
総資産回転率(回)	1.5	1.4	1.4	1.4	1.4



前提為替レート

参考資料

(円)

	2016年度 通期		2017年度 通期		2018年度 計画前提
	期中平均	期末	期中平均	期末	
米ドル	108.72	112.20	110.71	106.27	105.00
英ポンド	147.37	143.06	145.37	152.02	147.00
ユーロ	120.56	122.73	127.19	134.95	129.00
ペソ	5.84	5.64	5.95	5.74	5.50
人民元	16.41	16.76	16.63	17.30	16.20
ルピー	1.62	1.73	1.72	1.63	1.60
バーツ	3.10	3.25	3.32	3.46	3.35
ルピア	0.0082	0.0087	0.0084	0.0083	0.0080



資料取り扱い上の注意

このプレゼンテーション資料で述べられている将来の当社に関する見通しは、現時点で当社が知りうる情報をもとに作成されたものです。
あくまでも現時点での将来予想であり、リスクや不確定要素を含んでいるため、実際の業績はかかる予想と大きく異なる結果となることがあります。
それらのリスクや不確定要素のうち、主なものは以下のとおりですが、これらに限られるものではありません。

- 主要市場(日本、米州、欧州、アジア等)の経済状況、消費動向、及び自動車業界得意先メーカー各社の業況・戦略等に伴う製品需給の急激な変動
- 原油価格や鋼材価格の高騰に伴う当社製品製造コストへの影響
- 為替相場の大幅な変動
- 金融・資本市場における金利等の変動 など